

実践的花粉症対策

中醫クリニック・コタカ 小高 修司

スギなどの花粉飛散が多い春先の花粉症に関しては様々な意見が出されている。私も以前、基本的には風寒証であるとの論考を発表した(1)。本年新たな点鼻(鼻スプレー)を考案し、効果を感じたので、以前とは異なる視点を含めて、より実践的な用法を目的として新たに論考を行った。

1, 病因病理について

『素問』金匱真言論篇第四の「夫れ精は身の本なり。故に精を藏する者は、春に温を病まず」、また陰陽應象大論篇第五の「冬に寒に傷らるれば、春に必らず温を病む」を併せ考えれば、冬に精を保守しなければ、春に温病となることが明記されている。現代人が冬季にも通常の如く生活し、特に節制していないことは明らかであり、まさに「冬に精を藏しない」状況である。冬とは芽生えの春(陽気萌え出ずる候)に向けて、本来「穴ごもり=冬眠」をすべき季節なのである。

花粉症はヒトにより多少の全身症状を起こすことも報告されているが、基本的にはアレルギー性鼻炎の三主徴(くしゃみ、鼻水、鼻閉)であり、これが風温ではなく風寒(肺寒)による症状であることは前稿で論述してある。では問題とすべき「温病」はいつこにあると考えるべきなのだろうか。結論を急ぐ前にもう少し全体を見よう。

習慣的な冷飲食、特に前年夏の冷房、これらが「肺寒」をもたらし、肺気・肺陽の不足を来たす。気虚は(寒)痰を生じ、この痰濁が竅を阻み、竅たる鼻内は精気不足の状態になっており、病邪(風邪)への感受性が亢進していることになる。一方で肺陽虚は「金不生水」により腎陽の不足をも来たし、上記した腎精不足を一層助長することになる。ちなみに腎精は腎陽+腎陰であるが、『荘子』などの基本的な中国哲学の考えとしては、精の根本は気である。

この肺腎陽虚は二つの新たな病理を生む。一つは「水不生木」により肝気不足となり、ますますストレスによる肝気鬱結を受けやすくする。さらに肝鬱は火と化し、肺を灼く(「木火刑金」)。実火としては肺熱、特に鼻炎状態を起こし、虚火としては肺陰虚を来し、陰虚による虚火は上炎し同じく鼻に炎症を起こしやすくする。また二つめは陽虚により「虚陽上浮」をもたらし、これも鼻に炎症を起こしやすくすることにつながる。

このように鼻は精気不足により感受性が亢進している状況の中で、種々の炎症を起こしやすい状態が重なることにより、発作の準備は整っていることになる。そこに多量の花粉という抗原が飛来すれば、速やかに抗原抗体反応が起こり、著しい鼻炎状態が引き起こされることになる。

以上より、全身的には肺寒を温め、腎精を補うなどの対処が必要であっても、局所的には「温病」状態が鼻内に存在するので、鼻に対しては清熱を主とすべきことが明らかとなった。そこで鼻スプレーを考案した。

2, 風温用鼻スプレー製造法

淡竹葉、石膏、黄連、黄芩、桑葉、野菊花、金銀花、連翹、麦門冬、北沙参、防風を適量ずつ用意し、75%アルコールに浸漬し、生薬を除去後、煮てアルコールを去りチンキ化する。この原液 1cc を生理食塩水 500cc に薄める。これを専用容器に入れて使用する。

通常は鼻の上方(上甲介)に向けてスプレーするが、咽の痛みや耳の奥が痛痒いなど、中咽頭や耳管開口部の炎症が示唆される場合は、鼻前庭に沿って咽の奥をめがけて吹き込むとより効果的である。使用量・回数の制限は全くない。

ちなみに通年型の鼻アレルギーの場合は、局所的な抗原抗体反応も花粉症ほど強くなく、炎症も少なく鼻粘膜も蒼白状であることが多いので、風寒薬を主体とするスプレーを用いる必要がある。

3, 全身対応方剤

全身的な肺寒状態には麻黄附子細辛湯を基本処方とする。さらに日常多飲傾向にあり、心下に留飲の存在が考えられる場合は、小青竜湯を合方する。

目の痒みを強く訴えるのは、肝火との絡みであるから、その程度に応じて柴胡桂枝乾姜湯などをベースにして疏肝理気する。夏枯草、決明子、藜子、野菊花など肝火肝熱を清する生薬を用いるのも可である。

もし全身的にも風温による温病系症状が見られる場合は、上記の風寒用の方剤を一時的にしる捨てる必要がある。またストレスなどによる気滞が強く、その内熱のために陰易が灼耗されている場合は滋陰を行う。ただし肝熱が強い患者は、当然胃熱も強まり(肝火灼胃)、口渴して冷飲多食の傾向が多く見られる。結局は習慣的な冷飲食により肺胃は冷え、機能低下する(冷飲傷肺、冷飲傷胃)ので、風寒薬が再登場する。

また時には肺腎陰虚に対する方剤を配慮する必要もあるかもしれない。従って基本通りに、診察の度に四診を行い、証を見損なわないように留意すべきであることは論を俟たない。

【文献】

1, 小高修司：スギ花粉症は風温病か(前編)、和漢薬 614:1-3,2004

小高修司：スギ花粉症は風温病か(後編)、和漢薬 615:3-4,2004